

研究活動 Research Activities

各研究者ごとの研究活動を[展覧会の企画・構成], [著書], [論文], [翻訳], [エッセイ・作品解説など], [口頭発表・講演など], [その他の活動]の7項目を中心に報告する(研究者の五十音順)。項目は研究者によって多少の異同がある。また, これは各研究者の美術館内外での主要な研究活動の報告であり, 網羅的な著作目録を意図したものではない。

河口公生/Kimio KAWAGUCHI

[論文]

「マムズベリー伯爵旧蔵《ある男の肖像》の科学調査」, 『国立西洋美術館研究紀要』No.2, 1998年3月, pp.29-42

[貸出作品の修復処置と保存管理]

「素材と表現」展, 1997年4-6月, 主催:国立国際美術館/国立西洋美術館

「国立西洋美術館展:愛と生命の響き」, 1997年4-5月, 主催:新潟県立近代美術館/国立西洋美術館/財団法人西洋美術財団

[講演]

「展覧会における絵画作品の損傷と取扱い」朝日新聞社企画部主催, 1997年11月

「美術品の管理と運用」全国美術館会議主催, 1998年2月

[その他]

チャイコフスキー博物館(ロシア共和国)所蔵《肉声録音蠟管レコード》の修復・再生, NHK・北海道大学応用電気研究所共同プロジェクト(蠟管の修復), 1997年10月

[講演会の企画運営]

トム・ラーナー(テイトギャラリー絵画修復員), ディレク・プーレン(テイトギャラリー彫刻修復室長)によるイギリスにおける現代美術の保存と修復の現状について, 1998年3月

喜多崎親/Chikashi KITAZAKI

[論文]

「歌えなくなった詩人 — ギュスターヴ・モローの二組の《人類の生》をめぐって —」, 『國學院雑誌』第99巻3号, 1997年3月, 國學院大學, pp.15-30

「見せられる裸婦と風景 — クールベの《眠れる裸婦》にみる眼差しの換喩」『国立西洋美術館研究紀要』No.2, 1998年3月, pp.53-73

[エッセイ]

「ギュスターヴ・モローの水彩画」, 『国立西洋美術館展:愛と生命の響き』カタログ, 新潟県立近代美術館, 1997年, p.38

[その他の活動]

「西洋美術研究支援画像データベースと画像処理 — 欧米で開発された諸ツールのわが国における応用と作品研究」(平成9年度文部省科学研究費補助金一般研究(A)), 波多野宏之氏他4名との共同研究

国立西洋美術館情報システム委員

早稲田大学第二文学部非常勤講師, 1997年4月-1998年3月

幸福 輝/Akira KOFUKU

[論文]

「ロヒール・ファン・デル・ウェイデンとマムズベリー伯爵旧蔵《ある男の肖像》」, 『国立西洋美術館研究紀要』No.2, 1998年3月, pp.9-18

[翻訳]

ジャイムズ・マーロウ序文, アンヌ・ヴァン・ビューレン『トリノ・ミラノ時禱書』(共訳), 岩波書店, 1997年

[エッセイ]

「絵画のような版画 — レンブラントのエッチングについて」, 『国立西洋美術館展:愛と生命の響き』カタログ, 新潟県立近代美術館, 1997年, p.110

[口頭発表・講演など]

大原美術館夏期講座「北方ルネサンス」における講演(1997年8月)

[その他の活動]

「クロード・ロランと理想風景」展(1998年9月開催予定)の調査・準備

『国立西洋美術館年報No.31』の編集

『国立西洋美術館研究紀要No.2』の編集

西洋美術館所蔵ロヒール・ファン・デル・ウェイデン作品の調査・研究・出版

美術史学会査読委員

明治大学政経学部, 同第二文学部非常勤講師(1997.4-1998.3)

越川倫明/Michiaki KOSHIKAWA

[展覧会企画・構成]

「国立西洋美術館展:愛と生命の響き」, 新潟県立近代美術館, 1997年(共同企画)

[著書]

『光と闇:華麗なるバロック絵画展』カタログ(平塚市美術館ほか), 東京新聞, 1997年(共著)

高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』, 新書館, 1997年, pp.53-72(分担執筆)

[論文]

「国立西洋美術館所蔵作品による科学調査の実例報告(その2): パオロ・ヴェロネーゼ作《聖女カタリナの神秘の結婚》— 作者帰属とX線写真の解釈をめぐって」, 平成7~8年度文部省科学研究費総合研究(A)-1「西洋美術史と科学鑑定法—その歴史と現状」研究成果報告書(非公刊, 1997年4月提出)所収

「カラヴァッジョとアンニーバレ・カラッチ後のローマ絵画」, 『光と闇: 華麗なるバロック絵画展』カタログ, 東京新聞, 1997年, pp.23-30, 158-162

[エッセイ・作品解説など]

「国立西洋美術館の版画コレクション」, 『国立西洋美術館展: 愛と生命の響き』カタログ, 新潟県立近代美術館, 1997年, pp.69-72

「プシュケの物語」, 『国立西洋美術館展: 愛と生命の響き』カタログ, 新潟県立近代美術館, 1997年, p.79

「イタリア・バロック絵画と日本の美術館」, 『イタリア図書』19号(1997), pp.2-4

[口頭発表・講演など]

「ヴェネツィア・ルネサンス絵画」1997年, 朝日カルチャーセンターにおける講演(2回)

「1545年のティツィアーノ」1997年, 名古屋大学における出張講義

[その他の活動]

学習院大学非常勤講師(平成9年度美術史学特講「ティツィアーノ研究」)

マーヴィン・アイゼンバーグ「修道士と音楽と写本: フィレンツェ中世・ルネサンスの聖歌集挿絵をめぐって」1997年, 国立西洋美術館における招待講演会の企画運営

マーヴィン・アイゼンバーグ「初期イタリア絵画の技法と表現」1997年, 学習院大学における招待集中講義の企画運営

ブルース・パウチャー「絵画と彫刻のあいだ: ヤコポ・サンソヴィーノとパラゴネ」1997年, 国立西洋美術館における招待講演会の企画運営

「イタリア中部地震文化財修復支援募金」事務局運営(1997年10月~)

佐藤直樹/Naoki SATO

[著書]

『ウィーン美術史美術館 絵画編』彩鳳社, 1996年, (共同監修)

高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』, 新書館, 1997年, pp.73-76, 78-89(「概説北方ルネサンス」, コラム「風景画の誕生」, 作品解説など)。

[論文]

Eine ikonologische Interpretation der Ehrenpforte des Kaisers Maximilian I., in: Aspect of Problems in European Art History, The Seminar in Western Art History at Tokyo University of Fine Arts and Music Lectures and Contributions, ed. by Koichi Koshi, No.1, Tokyo, 1997, pp. 105-112

[口頭発表, 講演など]

代々木ゼミナール造形学校芸術学科コース, 夏期講習会特別講

演「学芸員の仕事について」, 1998年8月27日

[その他の活動]

“Die Andere Hälfte der Kunst,” veranstaltet vom Kunstgeschichtlichen Seminar der Universität Hamburg, Warburg-Haus, 14.-16. Okt. 1996(会議参加)

“Jacob Burckhardt,” veranstaltet vom Kunstgeschichtlichen Seminar der Universität Hamburg und Warburg-Haus, 1997(会議参加)

“Internationales Symposium zu Hans Holbein dem Jüngeren,” veranstaltet von der Vereinigung der Kunsthistorikerinnen und Kunsthistorikern in der Schweiz und der öffentlichen Kunstsammlung Basel, Kunstmuseum Basel, 26.-28. Juni, 1997(会議参加)

“Holbein Colloquium,” The National Gallery, London, 1 Nov. 1997(会議参加)

「記憶された身体」展(1999年7月開催予定)の調査・準備

「和紙と西洋版画(仮称)」展(2003年開催予定)の調査・準備

国際シンポジウム「皮膚の想像力」(国立西洋美術館・ドイツ日本研究所共催, 1999年7月16-18日開催予定)の企画・準備

高階秀爾/Shuji TAKASHINA

[著書]

『世紀末の美神たち』(新版), 青土社, 1997年

『法蘭西美術史—從文藝復興到世紀末』(中国語版), 藝術家出版社, 1998年

[論文]

「歴史画とは何か」, 『安田靱彦—いにしえ人に想いをはせて』, 佐野美術館, 1997年, pp.65-67

「マニエリスム 不安の時代の表れ」, 「古典主義—安定した秩序感への指向」, 「対抗宗教改革と大衆教化」(『バッハ全集』第2巻: pp.134-143, 第13巻: pp.170-179, 第3巻: pp.132-141), 小学館, 1997年

「ふたつの顔の革新者」, 『アルフレッド・スティーグリッツとその仲間たち』, 東京都写真美術館, 1997年, pp.11-14

“Le mot et l’image dans l’art japonais,” *Le siècle du design art-info: présent et futur*, Maison de la culture du Japon Paris, 1997

「ふたつの写実主義—初期洋画とフォンタネージ」, 『フォンタネージと日本の近代美術』, 東京都庭園美術館, 1997年, pp.19-25

「佐伯芸術における西欧と日本」, 『佐伯祐三』, 東京インターナショナルアートフェスティバル'97, 1997年, pp.5-10

「亡き妻への相聞歌」, 『近代画説』第6号, 明治美術学会, 1997年, pp.118-119

「パトロンとしての皇室」, 『アサヒグラフ「別冊」皇室の名宝』, 朝日新聞社, 1998年 pp.114-115

「生活のなかの美」, 『PARIS-TOKYO-PARIS SHISEIDO 1987-1997』, パリ装飾美術館・資生堂, 1998年, pp.14-15

[エッセイ, 書評など]

「イサム・ノグチ」展評, 長崎新聞など, 1997年4月18日

「美術に表された獅子」, 『獅子が舞いシシは踊る』, 日本芸術文

化振興会, 1997年, pp.4-5

「印象派の革命家モネ」, 『モネ 印象派の誕生』, 創元社, 1997年, pp.1-4

土屋良雄著『幻想のガラス—サントリー美術館コレクション100』序文, 淡交社, 1997年

山本健吉著『いのちとカタチ—日本美の源を探る』解説, 角川文庫, 1997年, pp.462-471

「香りたつ「ロココ」の精華」, 「ルーブル美術館」展評, 読売新聞社, 1997年, 7月3日

「脇村先生と原撫松」, 『学士会会報』No.816, 社団法人学士会, 1997年, pp.10-11

「美術史とは何か」, 『西洋美術史ハンドブック』(編者:三浦篤, 高階), 新書社, 1997年, pp.10-11

「軽井沢高原の美術館」, 文化学院新聞第132号, 文化学院, 1997年8月25日

「ポンピドー・コレクション展」推薦文, 朝日新聞社, 1997年9月19日

「日本近代の見直しへ:佐藤道信著『日本美術誕生』」, 『日本の美学』26号, ぺりかん社, 1997年, pp.169-172

「馬淵明子著『ジャポニズム—幻想の日本』」, 『ていくおふ』No.80, 全日本空輸株式会社広報室, 1997年, pp.48

「平成のリーダー」, 滝川精一著『時計を見て仕事をするな』, 日本経営協会総合研究所, 1997年

“When Rules Meet Reality,” JAPAN ECHO, Vol.24, No.4, pp.50-51

[監修]

『モネ 印象派の誕生』, 創元社, 1997年

[座談会・インタビュー・鼎談]

「第14回山種美術館賞展の審査を終えて」(座談会:浅野徹/内山武夫/酒井忠康/高階秀爾, 司会・草薙奈津子), 『今日の日本絵画 第14回山種美術館賞展』図録, 山種美術館, 1997年

「デジタル時代のアカデミズム」(インタビュー:伊東順二), 『ICS』Vol.2, 学校法人環境造形専門学校, 1997年, pp.4-11

「光の造形化をめぐる—建築・芸術・文化」(鼎談:磯崎新×橋本典子×高階秀爾), 『日本の美学』26号, ぺりかん社, 1997年, pp.2-17

[講演会・シンポジウム]

「西洋近代美術の流れ」, 「国立西洋美術館展—愛と生命の輝き」記念講演会, 新潟県立近代美術館, 1997年4月

「美意識の東と西」, 司法研修所専門研究会講演, 1997年5月

「バロック美術の栄光」, 「プーシキン美術館所蔵—イタリア・バロック絵画」展美術講演会, 秋田県総合生活文化会館, 1997年8月

“Masterpiece and Meibutu: Making of Value in Art,” *The Nature of the Masterpiece in Japan and Europe*, International Conference, University of East Anglia Norwich, 1997, September

「創造する伝統」, 『デザインの世界』展オープニングシンポジウム, パリ日本文化会館, 1997年9月

「都市の文化空間としてのミュージアムの役割」, 『変貌するミュージアム—殿堂から文化発信拠点へ—』文化講演会, リーガロイヤルNCB, 1997年9月

「浮世絵とジャポニズム」, 国際シンポジウム『浮世絵—東西の架

け橋』, 山口県立萩美術館, 1997年10月

「地中海:人びとの宴」, 地中海学会20周年記念フォーラム『豊穡の海へ』, 弘済会館, 1997年10月

「美術館の未来」, 「1920年代のパリ・芸術家たちの出会い」, 『東京国際ショナルアートフェスティバル』講演会, 東京国際フォーラム, 1997年10月, 11月

「桃山時代の光と影」, 『京都国立博物館開館100周年国際シンポジウム』, 国立京都国際会館, 1997年11月

「公開と教育」, 『97年世界博物館・美術館京都会議』, ホテル日航プリンスホテル京都, 1997年11月

「岡倉天心 人とその魅力」(文化講演会), 「天心と近代日本美術のあゆみ」(シンポジウム), 『天心と五浦の作家たち』展, 茨城県天心記念五浦美術館, 1997年11月

「フランスからみた日本文化の現在」, 『21世紀に向けての文学シンポジウム』, 東京ビッグサイト, 1998年1月

「愛知県美術館コレクションにみる20世紀の西洋美術」, 『近代美術の100年』展記念講演会, 愛知県立美術館, 1998年1月

「2つの社会・文化の相互理解をめざして」, 『日本スペイン シンポジウム』, 日経ホール, 1998年3月

高橋明也/Akiya TAKAHASHI

[展覧会企画・構成]

「素材と表現—国立西洋美術館所蔵作品を中心に」(国立西洋美術館, 国立国際美術館合同企画展, 会場:国立国際美術館, 会期:1997年4月17日—6月22日)

[エッセイ, 作品解説など]

「国立西洋美術館のコレクション—松方コレクションとその後」, 『素材と表現』展覧会小冊子pp.4-5

「展覧会成立事情〈素材と表現—国立西洋美術館の所蔵作品を中心に〉」『国立国際美術館月報』no.56, 1997年5月号

〈フランス地方美術館めぐり〉:(32)「コート・ダジュールの美術館 その1—サン=ジャン=カップ=フェラからカーニュ=シュル=メールへ」

〈リスボンのミュージアム〉:「カロウステ・グルベンキアン美術館」

〈フランス地方ミュージアムめぐり〉:(33)「コート・ダジュールの美術館 その2—ヴァンスとサン=ポール」『Bon Voyage』Nos.75, 76, 77, エール・フランス国営航空会社, 1997-98年

[口頭発表, 講演など]

講演会「国立西洋美術館とそのコレクション」(1997年5月, 国立国際美術館)

レクチャー, 青山学院女子短期大学

[その他の活動]

東京芸術大学非常勤講師(1997年4—9月)

田中正之/Masayuki TANAKA

[展覧会企画・構成]

「素材と表現—国立西洋美術館所蔵作品を中心に」

[論文]

「青騎士年鑑と同時代の思想」『鹿島美術研究年報』No.14, pp.199-216

[講演]

「ドイツとフランス—20世紀美術史の歴史叙述」, 東京都現代美術館, 1997年11月

田邊幹之助/Mikinosuke TANABE

[エッセイなど]

「宗教改革時代の〈女の力〉」, 『芸術新潮』, 1997年8月号, pp.67-74

[その他の活動]

「死の舞踏」展(2000年開催予定)のための調査・準備

『西洋美術館名作選』編集

専修大学文学部非常勤講師(1997年4月—1998年3月)

寺島洋子/Yoko TERASHIMA

[著書]

『ものがたりの森』(セルフガイド/共著), 1997年

[教育普及活動]

ギャラリートーク「ものがたりの森」, 1997年7月1日—31日

サブ・プログラム「ものがたりの森」, 〈もうひとりの自分ストーリー〉
1997年8月7日, 〈しずくのぼうけん〉8月14日, 〈宝探しゲーム〉8月21日

[その他の活動]

「日本の美術館教育の調査研究」ポラ美術振興財団平成8年度助成, 1997年1月—1998年

カナダ青年国際交流事業「日本—カナダ仮想展覧会」協力(1997年—1998年3月)および「インターネットによる仮想展覧会に関する共同研究」(1997年9月—1998年3月)

塚田全彦/Masahiko TSUKADA(1997年10月採用)

[論文]

「東南アジア古陶磁の特性について—ベトナムおよびミャンマー採集陶片の化学分析」, 『東北芸術工科大学紀要』第4号, 1997年, pp.34-41(共著)

[その他の活動]

「イタリア中部地震文化財修復支援募金」事務局運営(1997年10月—)

東北芸術工科大学芸術学部非常勤講師(1997年11月)

波多野宏之/Hiroyuki HATANO

[著書]

『全国美術館会議第12回学芸員研修会報告書[美術著作権と新しいメディア]』(共著), 全国美術館会議, 1998年

『次世代電子図書館システム研究開発事業—ユーザー委員会報告書—』(共著), 日本情報処理開発協会, 1998年

[論文]

「国立西洋美術館における西洋美術研究支援アプリケーションツ

ールの評価—画像分類, 作家名ユニオンリストを応用した科研システムを中心に」, 『情報処理学会研究報告』Vol.97, No.48, 1997年, pp.31-36

「フランスにおける映像関連の施設と資料」, 『日仏図書館情報研究』No.23, 1997年, pp.89-93

[翻訳]

ラアニエ, C他「NARCISSE:絵画研究のための高精細画像の利用」(共訳), 『情報管理』Vol.40, No.1, 1997年, pp.38-53

[口頭発表, 講演など]

「国立西洋美術館における西洋美術研究支援アプリケーションツールの評価—画像分類, 作家名ユニオンリストを応用した科研システムを中心に」, 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会, 1997年5月

「フランスにおける美術情報の普及と専門教育」, アート・ドキュメンテーション研究会 第26回研究会, 1997年6月

「電子美術館とそれ以前の問題」, アート・ドキュメンテーション研究会電子博物館シンポジウム, 1997年12月

「国立西洋美術館美術情報センター(仮称)の目指すars」, アート・ドキュメンテーション研究会ars-WG平成9年度第7講, 1998年2月

[その他の活動]

63rd IFLA General Conference, Copenhagen, 1997.8(専門図書館部会調整委員会, 美術図書館分科会(座長)常任委員会出席等)

「西洋美術研究支援画像データベースと画像処理—欧米で開発された諸ツールのわが国における応用と作品研究」(文部省科学研究費補助金基盤研究(A), 1997年4月—1998年3月)

「日仏間美術超高精細画像と多言語通信の研究」(国際コミュニケーション基金助成調査研究研究代表, 1997年4月—1998年3月)

カナダ青年国際交流事業「日本—カナダ仮想展覧会」日本側コーディネーター(1997年7月—1998年3月)および「インターネットによる仮想展覧会に関する共同研究」統括(1997年9月—1998年3月)

「美術館における超高精細画像の応用に関する調査研究」(凸版印刷株式会社との共同研究)(1997年4月—1998年3月)

「新しい視覚情報開発のための民族誌映画の分析と活用」(国立民族学博物館共同研究, 1997年4月—1998年3月)

企画展示館建設に伴う新情報資料室設置準備

図書資料データ遡及入力

国立西洋美術館美術情報システムの改善

国立西洋美術館情報資料懇談会の継続開催

放送大学客員教授(1997年9月—1998年3月)

慶應義塾大学文学部非常勤講師(1997年4月—1998年3月)

雪山行二/Koji YUKIYAMA

[口頭発表・講演など]

「ゴヤ, 時代を越えるもの」, 鹿島美術財団主催美術講演会, 1997年11月

「21世紀に向けての美術館の在り方」, 長野県博物館協会主催学芸員研修会, 1997年12月, 長野県立歴史館

[エッセイ・作品解説など]

「ヴァン・ダイクの《レガネース侯爵》」、『国立西洋美術館展：愛と生命の響き』カタログ，新潟県立近代美術館，1977年，p.22

神吉敬三著『巨匠たちのスペイン』，書評，日本経済新聞，1977年6月22日

「絵とか彫刻はみんなのものですから……」、『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』第2号，1997年10月

[その他の活動]

寄託作品《エル・エンペシナード》(ゴヤに帰属)の調査研究

「ゴヤ，エル・エンペシナード」(マドリード国立装飾美術館およびブルゴス博物館)への学術協力

文化庁主催「21世紀に向けての美術館の在り方に関する調査研究協力者会議」副座長，「文化による国際貢献に関する調査研究協力者会議」(委員)

全国美術館会議における博物館法検討委員，法人化問題検討委員

東京国立近代美術館運営委員

三重県立美術館専門委員